

1. センターの運営体制

ボランティア・NPO 活動センターでは、ボランティア・NPO 活動センター委員会、ボランティア・NPO 活動センター会議、学生スタッフミーティング、スタッフ会議の4つの会議を運営するなかで、様々な事業を教員、職員、学生の三者が共同で進めています。昨年度に引き続き、今後のセンター発展のために何が必要か、現状の課題やそのあり方を考える会議『ボランティア・NPO 活動センターのこれから会議』を開催しました。

ボランティア・NPO 活動センター委員会 (通称：センター委員会)

センター委員会は、教職員で構成する公式の学内組織で、センターの運営や各種事業についての審議や報告を行います。この委員会には、学生スタッフ代表のオブザーバー参加を認めており、学生スタッフが企画するボランティアプログラムなどの企画提案や報告を学生スタッフ自らが行います。

2022年度はオンライン形式（Zoom）で開催し、職員からの提案・報告だけでなく、学生スタッフ企画に関しては学生スタッフ代表が提案や報告を行いました。

センター委員会では、委員からセンター事業に対する意見はもちろん、学生スタッフ企画へのアドバイスなどがなされます。

ボランティア・NPO 活動センター会議 (通称：ボラセン会議)

ボラセン会議は、正副センター長とセンター職員、学生スタッフで構成し、センター長進行のもと、学生スタッフの企画やセンター事業の報告・連絡などを行います。原則毎月、深草・瀬田のいずれかのキャンパスで交互に開催しました。

大学の行動制限レベルが緩和されたこともあり、できるだけ対面での参加としましたが、オンライン参加もできるよう設定し、より多くの学生スタッフが参加できるように配慮しました。

学生スタッフミーティング

学生スタッフミーティングは、キャンパスごとに、放課後に学生スタッフ企画やセンターの運営について話し合いをしたり情報共有をしたりしています。

2022年度からは対面での活動制限も緩和され、感染症対策をしっかりと行いながら対面での開催を基本としました。ただオンライン参加も併用し、各

自が安心して参加できる形式をとりました。ハイブリット形式のミーティング運営を円滑に行うため、事前に機材準備や会議アプリの動作確認を丁寧におこなう事も徹底しました。

また対面形式を基本としたことで、改めてホワイトボードの使い方や議題の順番等についても学生スタッフ間で話し合い、参加者全体の理解が深まるように工夫をしました。

このように各キャンパスで幹部を中心に学生スタッフ全体でコロナ後のミーティング運営を見据えながら、コロナ禍で得たオンラインの知識を活かして活動を進める事ができました。

スタッフ会議

スタッフ会議は、正副センター長とセンター職員で構成し、主にセンター委員会やボラセン会議の前に、その次第や資料の確認、センター事業や運営について検討しています。コロナ禍以前は、対面での開催でしたが、この3年でオンライン開催が定着しました。

ボランティア・NPO 活動センターのこれから を考える会議（通称：ボラこれ会議）

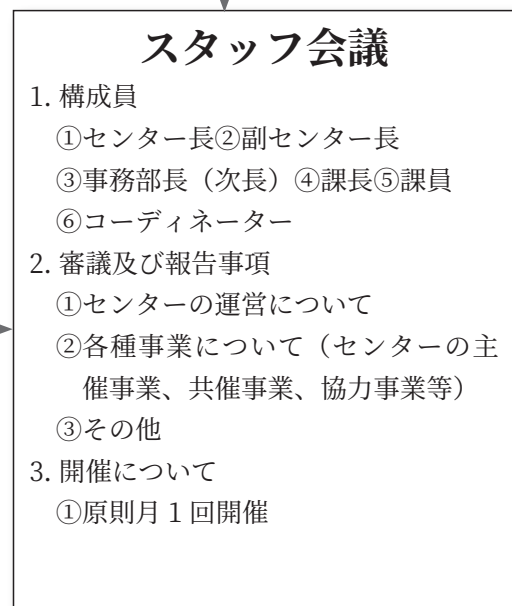
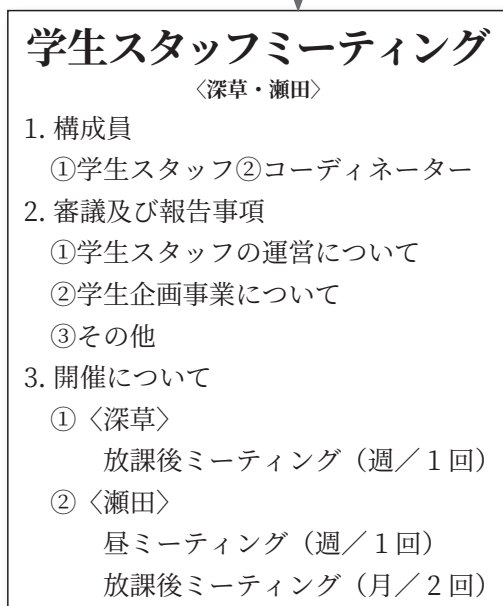
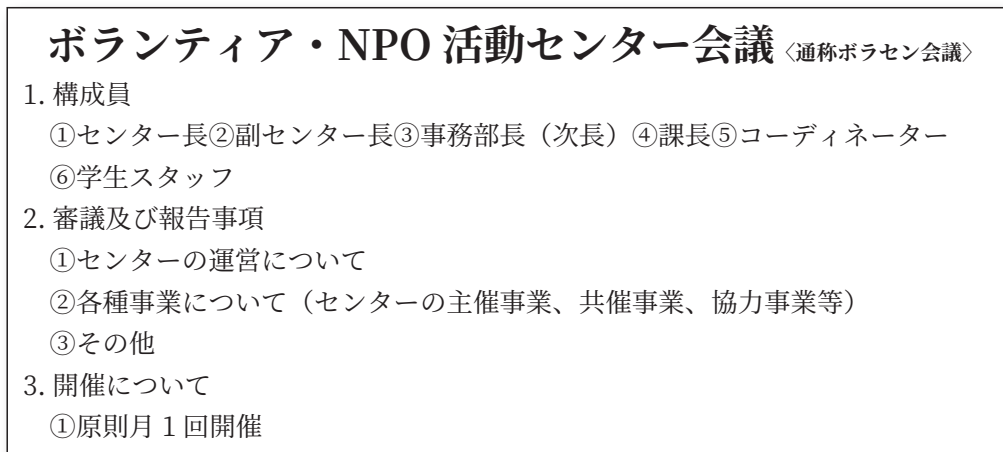
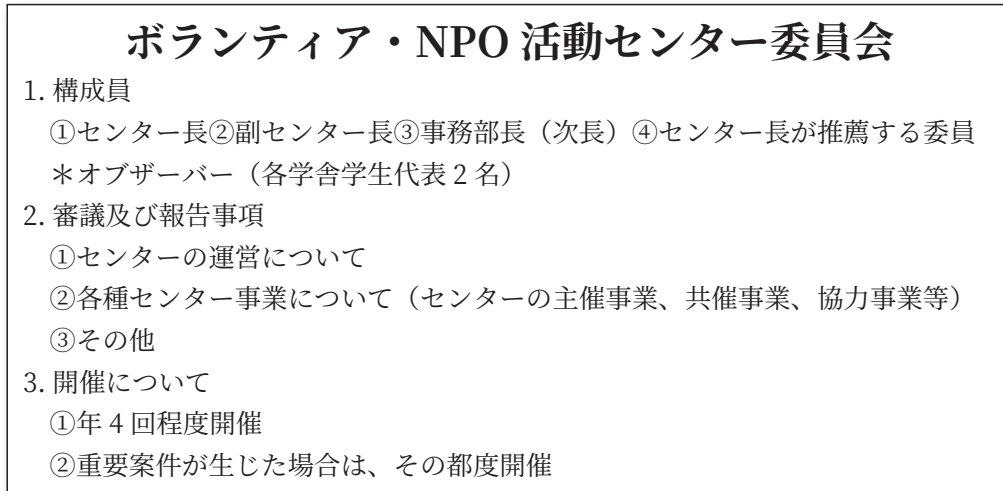
センター設置20周年を機に、ボラこれ会議を開催してきました。

2022年度の第1回目（2022年9月6日）では、「学生スタッフのあり方」「各事業のあり方再検討」「次年度事業の予算の概要」等の課題について、話し合いをしました。また、災害復興支援ボランティア委員会で検討している「災害発生時における深草周辺地域での本学の活動指針の策定について」についても、意見交換を行いました。第2回目（2022年11月18日）では、今後の東日本大震災被災地におけるボランティア活動について話し合いました。

今後も、このボラこれ会議を活用することで、諸課題の解決を目指したいと考えています。

ボランティア・NPO 活動センター 会議組織図

2021年 5月14日修正



【2021.5 修正箇所】 1. センター委員会、ボラセン会議、スタッフ会議の「事務部長」を「事務部長（次長）」に修正 2. スタッフ会議に「⑤課員」を追加 3. ボラセン会議／スタッフ会議の場所に関する記載を削除 4. センター委員会の頻度 年6回程度→4回程度と修正